

平成 27 年度第 8 回遠野市総合計画審議会

一 議事概要 一

(開催要領)

- 1 日時 平成 27 年 10 月 14 日 (水) 午前 9 時 00 分～午前 11 時 40 分
- 2 場所 あえりあ遠野 交流ホール
- 3 出席者

(1) 委員

会長	臼井 悦男	遠野市社会福祉協議会会長
委員	千葉 和	NPO 法人遠野エコネット代表
委員	千葉 純子	一般社団法人遠野市医師会会長
委員	菊地セツ子	遠野市食生活改善推進員団体連絡協議会会長
委員	河野 好宣	遠野市体育協会会長
委員	菊池 一晃	遠野市民生児童委員協議会会長
委員	松田 希実	遠野市わらすっこ支援委員会副委員長
委員	菊池 一勇	花巻農業協同組合理事
委員	濱田平八郎	遠野地方森林組合代表理事組合長 (代理出席、菊池修市)
副会長	荒田 良治	一般社団法人遠野市観光協会会長 (代理出席、菊池完)
委員	佐々木弘志	遠野商工会長
委員	小松 正真	一般社団法人遠野青年会議所理事長
委員	菊池香南子	遠野市校長会副会長
委員	工藤 和信	遠野市 P T A 連合会副会長 (代理出席、小島美代子)
委員	佐々木國允	遠野市郷土芸能協議会会長
委員	菅沼 隆子	一般財団法人遠野市教育文化振興財団副理事長
委員	内館 充幸	遠野市区長連絡協議会会長
委員	海老 糸子	遠野市地域婦人団体協議会会長
委員	木村 稔	岩手県南広域振興局経営企画部長 (代理出席、菊池修一)
委員	佐々木栄洋	公募
委員	菊池 広樹	公募
委員	高宏 美鈴	公募
委員	菊池 陵太	公募

(2) 遠野市

本田 敏秋	市長
菊池 孝二	副市長
藤澤 俊明	教育長
菊池 文正	経営企画部長
飛内 雅之	経営企画部まちづくり再生担当部長
菊池 永菜	経営企画部 ICT・医師確保担当部長
荻野 優	総務部長
古川 憲	健康福祉部長
佐藤 浩一	産業振興部長
大里 政純	農林畜産部長
仁田 清巳	環境整備部長
小向 孝子	遠野文化研究センター一部長
小時田光行	消防本部消防長
鈴木 惣喜	市民センター所長兼宮守総合支所長
多田 博子	教育部長兼子育て総合支援センター所長
鈴木 英呂	企画総括課長

澤村 一行	財政担当課長
千田 孝喜	まちづくり再生担当課長
伊藤 貴行	ICT・医師確保担当課長
菊池 享	総務部総務課長
沖舘 讓	健康福祉部福祉課長
千葉 典子	健康福祉部長寿課長
小向 浩人	農林畜産部農業振興課長
畑山 透	環境整備部建設課長
宮田 実	市民センター地域生活課長
立花 信一	市民センター生涯学習スポーツ課長
佐々木一富	子育て総合支援センター子育て総合支援課長
菊池 清春	宮守総合支所地域振興課長
米内 臣一	教育委員会教務課長
三浦 裕明	教育委員会学校教育課長

4 欠席者

委員	松田 克之	遠野市消防団団長
委員	鳥屋部恵児	公募

(議事次第)

分科会

- 1 開会
- 2 座長あいさつ
- 3 審議
 - (1) 全体会発表会に係る分科会の意見集約について
- 4 閉会

全体会

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 出席者報告及び日程説明
- 5 審議
 - (1) 分科会別審議結果について
 - (2) 第2次遠野市総合計画前期基本計画(案)について
- 6 その他
 - (1) 次回の審議会(第9回)日程について
 - (2) その他
- 7 閉会

(配付資料)

- 1 次第、名簿
- 2 分科会(10月5日)審議要旨(資料No.1)

(議事概要)

*分科会での審議(約30分)を経て全体会を開催。

1 開会

○菊池文正 経営企画部長

おはようございます。分科会での審議ありがとうございました。全体会を始めます。はじめに遠野市長からご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

○本田敏秋 遠野市長

おはようございます。今日は、だいぶ冷え込みましたが、皆さまには9時から集まっていただき、分科会での議論を行っていただきました。大変お忙しい中、積極的に参加いただいて委員の皆さまに心から敬意と感謝を申し上げます。

10月5日には、大綱別に分科会での審議を行っていただき、皆さまからさまざま建設的な意見を頂戴したと報告を受けています。その言葉の中に、第2ステージの総合計画をどのように位置付けるのが、少しずつ見えてきたと思っています。今日も、朝早くから分科会の議論をしていただいたことは非常に意義があり、総合計画が次の第2ステージとして、より明確に市民の皆さんに示し、市民協働における取り組みが大綱別にかたちとなって見えてくると確信したところです。

10月6日には、現在、策定作業を進めています総合戦略や人口ビジョンについて、議員に説明し意見交換を行いました。

また、その日の午後には、今後の地区センターや自治会のあり方について、区長連絡会の皆さんと協議を行いました。それぞれの町を代表する区長さんから、たいへん建設的な意見がありました。また、区長協議会の中でまとめた意見、市政に対する意見、地域に対する思いが取りまとめられている資料を読みました。特に、行政区と自治会のあり方については、明確に整理しなければならないということ、行政区長と自治会長を兼ねる場合に業務量が多くなってきていること、それらをスリム化していかなければならないという建設的な意見をいただきました。それらの内容をどのように総合計画に位置付けていくのか。また、基本計画を踏まえて実施計画に入れる時には、どのように位置付けていくのかが見えてきたと認識しています。お忙しいところお集まりいただいた区長さんにも、心から敬意と感謝を申し上げたいと思っています。

今日は、分科会のとりまとめと全体会で議論を交わしていただきますが、限られた時間ですが、第2ステージとしての第2次遠野市総合計画前期基本計画を市民の皆さんに分かりやすく、明確なイメージとして発信できる計画に取りまとめたいと思っています。審議会の皆さんにはなお一層のご協力をお願いして、あいさつとさせていただきます。よろしくをお願いします。

3 会長あいさつ

○菊池文正 経営企画部長

続きまして、臼井会長よりご挨拶をお願いいたします。

○臼井悦男 会長

おはようございます。秋の連休中に産業まつりや、躍進宮守まつりが、にぎやかに開催されました。稲刈りの中盤から終盤に差し掛かっていると思いますが、どうか良い天気が続いて無事に稲刈りが終了できるように祈っています。

わたしたちの議論も中盤から終盤に入ってきましたので、皆様のご協力をいただきながら広く深い議論につなげていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

4 出席者報告及び日程説明

○菊池文正 経営企画部長

出席者報告及び日程の説明についてです。

本日、委員の皆さま方の出席状況は、25名中代理出席を含めて22名の委員の皆さんに出席いただいています。なお、欠席の委員については松田委員、千葉委員、鳥屋部委員となっています。

次に、本日の配付資料について、ご確認をお願いします。

一つめは、次第と名簿。二つは資料 No. 1 分科会審議要旨です。あと過日配布した審議資料 No. 1 の第2次遠野市総合計画前期基本計画（案）と審議資料 No. 2 の第2次遠野市総合計画前期基本計画掲載主要事業（案）となります。

本日の予定ですが、各部会での審議結果を発表していただきます。その後質問等を受けまして、全体会で前期基本計画について審議いただきます。終了時刻は午前11時30分頃を予定しております。

5 審議

○臼井悦男 会長

それでは、分科会ごとに審議結果を発表してください。

○千葉和 委員（大綱1）

*別添の審議要旨により説明。

記載した資料以外としては、以下のとおり。

自然と共生する環境づくりの5つ目の○、「潤いのある自然景観」について景観に潤いがあるという言い方は正しくないと書いてありますが、分かりやすい表現にして欲しいということです。

自然と共生する環境づくりの6つ目の○、河川改修について、5年前の計画では『回復』となっていたところが今回『維持』になっていたため、回復を入れられないかという意見がありました。

2ページ目で、「新たな景観形成」について誤解が生じないと言うよりは、分かりやすい表現にして欲しいということです。

快適な居住環境の形成は、分科会で解決したので削除することにしました。

3ページ目の1つ目の○、パーク&ライドについて説明書きが観光地になっているので、観光だけでなく通勤・通学なども含めたものに直して欲しいです。

3ページ目で、自然災害についての文面は、ここでは入れにくいということで削除することにしました。

○松田希実 委員（大綱2）

*別添の審議要旨により説明。

○菊池一勇 委員（大綱3）

*別添の審議要旨により説明。

全体的な政策、施策、基本事業について異論はありませんでした。なお、それぞれの意見については、計画の遂行や実施に当たっては十分留意していただきたいと思います。

○菊池香南子 委員（大綱4）

*別添の審議要旨により説明。

ふるさと教育についての表記ですが、基本理念である遠野スタイルという言葉に基づいて、市民協働、まちづくりに基づいた遠野ならではとか、遠野らしいとか、を含めたふるさと教育を分かりやすい表現にして欲しいという意見でした。

食事の大切さについての表記ですが、『食育指導』を『正しい食生活』に訂正してほしいとの意見です。

偏差値については、分かりやすい説明をしてほしい。

まちづくり指標 407「全講座における継続的な学習機会の割合」と 411 の目標値が高いのではないか。目標値は、どのような理由で設定されているのか。

○内館充幸 委員（大綱5）

*別添の審議要旨により説明。

市長と語ろう会は、テーマを設定して、開催してはどうか。

○臼井悦男 会長

これから、意見交換を行いますが、その前に今の説明に対し、質問等ございますか。

大綱1について

○千葉和 委員（大綱1）

先ほどの説明で言い洩らしました。

本文の自然環境の保全の部分、前計画と同様に『本市に生息する希少な動植物を次世代に継承するため市民や関係機関と連携し、自然生態系の保護に努めます』となっています。環境団体の方から聞いても、遠野は希少な動植物が減少しているという認識があり、何か対策をしないと遠野らしい自然環境が維持できないという思いがあります。何とか意見として入れたいという思いがありました。

○佐々木國允 委員

希少動植物の保護について、実際に進めていく場合には、どのレベルまで行うのか。国や県では、レッドデータブックに掲載されているものが希少動植物と認識しているが、保護したり増やしたりするためには予算が必要だと思います。予算獲得のための活動も必要だと思います。

○千葉和 委員

花巻市では、独自にレッドデータブックを作っています。遠野ならではのレッドデータブックという意味では、国や県では希少種となっていないものでも、遠野では希少種というものがあります。例えばイワナについて、在来のイワナというのがあって放流したものでないのは国内的には希少だったりします。イワナは主としては希少種ではないけど、もともといたものは希少種です。他にもカジカとかもありますので、遠野独自のレッドデータブックがあれば…。

また、遠野遺産のなかに自然遺産がないので、そこに加えられないかと思います。

○高宏美鈴 委員

環境対策で、3Rとか分かりにくい言葉には説明を入れてほしい。ユニバーサルデザインとかもです。パークアンドライドは、説明を入れているので同じようにしてほしいです。

◆仁田清巳 環境整備部長

花巻市のような市独自のレッドデータブックは、自然環境保全の面では有効な取組だと感じました。

○佐々木弘志 委員

スマートエコライフで、まきストーブを検討してほしいとありますが、今、遠野ではごみの焼却がダイオキシンの問題でできません。暖炉やまきストーブは、その対象ではないのですがダイオキシンの影響がないかというところ大学の先生でも意見が分かれています。こういったものを活用できるのであれば、ごみの減量にもつながると思います。

◆仁田清巳 環境整備部長

かつては、公衆衛生組合で家庭用焼却炉をあっせんした経緯があります。ゴミを減量させる考え方です。その後、焼却灰にダイオキシンが残るので、あっせんはやめました。設置した家

庭用焼却炉は回収しています。まきストーブや暖炉がどうなのかはですね…。木質系ボイラーを進めているが焼却灰にはダイオキシン類が含まれていないのが分かっていますが、相関関係については調べて報告します。

大綱2について

○佐々木弘志 委員

20年か30年前ですが、帯広市で老人向け運動施設を作ったことにより、医療費が下がったとの話があったかと思うのですが、そのような施設があれば、スポーツに積極的に参加する人も増えると思います。

○佐々木國允 委員

正しい食生活のあり方という講演会が盛岡でありました。市としての取り組みとして、正しい食事の仕方、生活の仕方が定着できているのか。薬を使わないで、たんぱく質を中心とし、ビタミンを加えて体に必要なものを必要な時間に取り、8時間は睡眠するということで糖尿病、リュウマチ、高血圧は、かなり改善されるというものです。荒れている学校でも食事と生活を改善したら良くなったとも言っていました。市の職員も参加していましたので、その後の展開を期待しています。

地産地消も六次産業と同じであると思っています。地元の農産物を食材として加工し、付加価値を付けて健康に役立つという一連の流れ、取り組みが重要だと思います。

また、市長さんのあいさつで夢を語って欲しいとありましたので、発言します。日本の自給率は40%を切り38%程度です。アメリカは100%、フランスは122%、オーストラリアは123%とかです。国の安全と健康を守るために、農業者に手厚い補助を出していますが、遠野市が永遠の日本のふるさととしてモデルとなるように、内閣府にお願いできないものか。日本の生きる姿が遠野でできれば、日本中に広がることを期待できるのではないかと思います。

◆千葉典子 保健医療課長

健康づくりと医療費の関係についてですが、昨年一年かけてICTの健康づくり事業に参加した人と、それ以外の人を比較しようとしたのですが、職員だけでは結論が出せません。全国的に見ますと、事業を行ったことで年間の医療費が下がったという研究を出しているところもあります。例えば茨城県つくば市では、そのような実績があります。先進地域を参考にしていきたいと思っています。現在、関係課と検討しているところです。

○高宏美鈴 委員

町民運動会では、人数が少なくて棄権する種目もありますが、例えば、スポーツと食をつなげることができないものか。スポーツをした後に、オードブルではなく、何か、食を通して健康につながることをできないものか。スポーツはスポーツで、子育ては子育て、食は食だけで行っている感じなので、それらをつなげてプラスにできないものかと思っています。

あと、子育て支援のパンフレットを高校生に渡すのも良いとは思いますが、成人式で渡した方がより効果があると思います。

○佐々木栄洋 委員

スポーツと食の連携は大事だと思います。子どもたちを対象に事業をやることが多いので、その中で感じていることをお話ししたいと思います。一日かけてやるようなイベントでは、お昼にお母さん方の協力を得て郷土料理や豚汁など地元食材を使ったものを提供していますが、非常に好評であり、スポーツと食を連携させた方が良いということは、その通りだと思います。

9月27日に、食育の講演会を実施しました。講演会の内容はよかったです。PR不足なのか、参加者が少ないと申しますか、集めることが難しいという現状も報告したいと思います。

○千葉和 委員

67 ページの No. 223 の指標ですが、満足している人の割合は、どのように調査しているのか教えてほしいです。あと No. 224 の指標のわらすっこ割合は、現状維持という目標にしかできないのでしょうか。

◆千葉 保健医療課長

No. 223 の指標については3、4 か月検診の問診の項目に入れて聞いています。

◆佐々木 子育て総合支援課長

No. 224 のわらすっこ割合については、人口の年齢構造で高齢者人口が増えてきますので、割合を維持するという、(結果的には増加する) 期待数値であります。

大綱3について

○佐々木國允 委員

一つは、遠野牛のブランド化についてですが、食料の自給率の観点から見ますと和牛の自給率は、ほぼゼロ、というのはカロリーによる計算ということでしたが、エサがほとんど輸入に頼っていてゼロということらしいです。飼料を空いている農地を活用して、それにより飼育し、肥育しブランド化を進めていくべきではないかと思えます。

もう一つは、六次産業を推進するうえで付加価値を付けることを考えると、遠野に培われてきた食文化を掘り起こし検証して、正しい食事となるように工夫して産直などで食べてもらえるようにすることが大事だと思います。

遠野の市街地にどのような文化があったのかを考えて、それを掘り起こしていくことが大事であり、それが遠野のスタイルとなって長続きすると思えます。

あと、子どもたちにふるさとの味を覚えておくことが重要です。最近、どこにでもあるものを食べて育っている子どもが多いです。ここにある農産物を大事にしていく、それに付加価値を付けていくことが大事です。

○菊池広樹 委員

農業(野菜)をやっている中で、水が大事だと感じています。ピーマンとアスパラは、雨まかせの人と、積極的に水をあげたりして管理をしている人とは、収益に大きな差が出ています。耕作放棄地は、水が不便とか、普段から水がたまりやすいため、使われなくなっています。土地はあるけれど、水がなくて農業をあきらめる新規就農者もいると聞いていますので、水対策が重要です。

○海老糸子 委員

自分の山を知らないということでしたが、国土調査が進めば境界は分かると思いますが、進捗状況についてうかがいたいです。

◆仁田清巳 環境整備部長

国土調査については、手元に資料がありませんが、山林で現在残っているのは、上郷町の佐比内、青笹町、土淵町です。旧宮守町は、完了しています。

○菅沼隆子 委員

分科会の意見で、もっと現実的な国際交流とありますが、どのような意味合いでしょうか。

○菊池一勇 委員

サレルノと交流していますが、遠いために、交通費とか日数の面で難しいので、もう少し近い場所との交流をしてはどうかという意味です。例えば、3、4時間位で行くことができる地域との交流の方が進むのではないかと思います。

○菅沼隆子 委員

国際交流の推進では、市が行う事業の印象がありますが、財団が行っているものもあります。国際交流では、サレルノ市の記載はありますが、ドイツのシュタイナウ市、アメリカのチャタヌーガとも交流しています。

○菊池文正 経営企画部長

総合計画は、環境づくりという考え方が前提となります。そのうえで、これを誰が、どのように行っていくのかとなりますが、その実施主体については、大綱ごと、項目ごとによって変わってくると思います。特定団体だけでなく、遠野スタイルの趣旨に基づいて進めていくことが重要だと思います。

○佐々木栄洋 委員

ブランド化や国際交流の深い意味と言いますか中身を検討する必要があると思います。財団の方が主に進めているのは、文化的なものだと思うのですが、ブランド化を考えると経済交流も必要だと思います。多面的なことをも考えて進める必要があると思います。

モノを売る難しさ、誰に売り込むのかというのがはっきりしないと効果が上がりません。遠野製品のブランド化は、誰に対して売なのか考えなければならないと思います。県内では、二戸市では世界に向けて売り込んでいくという考え方をしています。遠野の産品を世界に売り込んでいく企てを総合計画とも併せて進めていければと思います。

○小松正真 委員

六次産業の推進については、75 ページと 86 ページに分かれています。元々の考え方は、一次産業の方が進めるものですので 75 ページに集約したほうが良いと思います。六次産業を進めるにあたって、市内に専門家がいないので、専門家、専門機関の育成が必要だと思います。

86 ページで展示会等とありますが、インターネットで販売する市場規模は数兆円となっていますので、ICT を利活用して販路を拡大していくことが必要かと思っています。

95 ページの受入強化についてですが、ラグビーワールドカップが 2019 年に釜石で行われ、2 万人規模のスタジアムができますので、遠野でも受け入れ態勢の強化を図っていくべきだと思います。

○千葉和 委員

94 ページの観光メニューの充実についてですが、遠野の魅力は自然環境だと思いますので、自然を堪能する掘り起こしをして欲しいと思います。遠野では、アウトドア系のレジャーがあまりありません。私たちは、今、川下りのルートの調査をしていますが、民話だけでなく若い人たちに遠野の自然の中で、川とか山とかを楽しむ要素も入れてほしいと思います。

大綱 4 について

○小松正真 委員

115、116 ページの青少年の健全育成等についてですが、老人クラブの会員数が指標として出ています。今日は、青年団体 4 団体が参加していますが、こちらの会員数も指標に入れていただければ、私たちも目標にしてがんばりたいと思います。

○千葉和 委員

121 ページの博物館についてですが、ふるさと村の資料館があまり使われていないと感じますので、活用していただきたいと思います。

また、伝承園やふるさと村、水光園は、生きた博物館だと思いますので、市民が観光ではなく学びの面でも活用できればと思います。

125 ページの郷土芸能についてですが、後継者の育成はどこも大変です。子どもの発表の場をすることにより、後継者が成長していくと思います。子どものひのき舞台をつくれなにかと思っています。

○佐々木國允 委員

郷土芸能発表会も今年で6回目を迎えますが、今の意見を踏まえて子どもの枠も設けて、進めたいと思います。

○高宏美鈴 委員

128 ページの語り部認定者数の指標についてですが、平成 32 年度で 1000 人を目指すとなっていますが、その後は、どのようになりますか。

◆小向孝子 遠野文化研究センター部長

まずは、1000 人を目指そうとスタートしましたが、1000 人になったから終わりではありません。語りは昔話だけでなく、生活に密着したものであり文化の継承につながっており、継続していくものです。

○小松正真 委員

126 ページの部分で、遠野遺産では観光と連携した情報発信とありますが、どのような意味ですか。

◆新田 経営企画部

遠野遺産を巡る観光コースもありますので、観光面での情報発信も大事です。

○松田希実 委員

ふるさとの文化の継承において、郷土芸能とか文化財とかありますが、もっと、地元の子どもたちを巻き込んだ活動があっても良いと感じています。遠野中学校の協力いただき、商店街の活性化について、中学生と一緒に考える活動を行いました。それぞれのお店を知るためにフィールドワークを行いました。一度も入ったことの無い店も多くあり、子どもたちにも良い勉強になりましたし、大人にとっても良い体験であったと思えました。昔の商店街の様子が、博物館に展示されていますが、小学生は行ったことがあると思うのですが、中学生はほとんど行ったことがないのか知らない現状でした。

一日商店街では、三田屋での町屋の活用にもかかわっていますが、高校生も昔の町並みの調査に関わってくれています。遠野のふるさと文化の継承、遠野ならではの、遠野らしさという言葉は、具体的に何なのかと考えたときに、それは、私たちがそれぞれ思うことでもありますが、それを今の中高生が感じられているのかと思っています。文化財の保護や調査、そして、郷土芸能でも一緒に活動できればと思います。一度、年代を超えて一緒に活動できる機会があれば、そこからまた、遠野らしさが進んでいくと思います。

○佐々木栄洋 委員

学校の教育を偏差値だけを見る必要は、まったくないと思いますが、偏差値は間違いのない一つの指標であるということも一つの事実であると思います。112 ページの偏差値で、小学校の現状が 53.8 で、中学校は 48.4 となっており、中学校になった団体で 5 下がっていますが、この点について教えてください。

◆三浦裕明 学校教育課長

小学校から中学校へという部分での課題として、教育委員会では、小中連携した学力向上の対策に取り組んでいます。

○佐々木栄洋 委員

ここに問題が隠れていると思います。教育関係者以外の、ここにお集まりの皆さんの知恵をいただきながら解決できないかと希望を持っています。

大綱5について

○千葉和 委員

今後の遠野市としては、新しい庁舎が重要だと思います。過日の説明では、多目的市民ホールができるとのことでしたが、その機能をどのように整理するかが、市民協働の部分で非常に大切になると思います。様々な団体の発表や交流の拠点になって欲しいと思っておりますが、その場所に隣接するのは観光課だったと思いますが、市民協働の担当部署である市民センターに隣接してほしいと思います。

◆飛内雅之 経営企画部まちづくり再生担当部長

市民協働の場としては、市民センターがありますので、そこを拠点としていきたいと考えています。そこから波及した個々の一つとして、多目的市民ホールも使っていただきたいと思っております。また、中心市街地を活性化したいとの思いから、産業振興部を配置したところです。

○臼井悦男 会長

他にありませんか。今日の意見を踏まえて事務局でまとめていただきます。

次回の答申にあたりましては、答申の素案については私に一任していただき、素案として準備したいと思っておりますが、よろしいですか（「異議なし」との声あり）。

それでは、次回は、素案を示していただいてご意見をいただきますので、よろしくお願い申し上げます。

6 その他

○鈴木英呂 企画総括課長

* 次回の審議会の日程連絡。

○本田敏秋 遠野市長

今日は、早朝から活発な議論をいただきました。いろいろな課題が浮き彫りになりました。取り組むべきあるべき姿が、今日の議論の中で具体的にみえてきたと思います。

今日、発表がありましたが、12月5日に遠野インターが供用開始になるということで国土交通省が正式に発表しました。遠野の地理的優位性をいかに発揮するか、ますます真価が問われる正念場ですので、皆さまの更なるご協力とご支援をお願いします。

現在、議論している遠野スタイル創造・発展総合戦略は、基本構想における共通優先課題の産業振興と雇用確保、少子化対策と子育て支援を柱にしておりますが、その内容を市議会議員の皆さんにも説明したところです。

今日は、ありがとうございました。

7 閉会

○菊池文正 経営企画部長

以上をもちまして、平成27年度第8回遠野市総合計画審議会を終了させていただきます。大変ありがとうございました。